

外国語科 (コミュニケーション英語Ⅱ) 学習指導案

単元名 LESSON 5 Optical Illusion

New ONE WORLD Communication II

日時 平成29年10月19日(木) 2校時
対象 2年4組
場所 大講義室
指導者 多田 昌導

(1) 本単元の構想

「CAN-DO リスト」の形式による学習到達目標における位置付け

- ・自身の体験やそれに対する感想や意見を、事前に準備した原稿を見ずに、視覚的補助を効果的に活用しながら、話す速度や明瞭さを意識して発表できる。



単元の目標

- ① 談話構造や視覚補助を工夫しながら、紛らわしい画像について口頭で聞き手にわかりやすく紹介する。
(「思考・判断・表現」「話すこと(発表)」)
- ② 談話構造や視覚補助の工夫に触れながら印象に残った紹介について積極的に話す。
(「主体的に学習に取り組む態度」)
- ③ 関係代名詞 (which)、関係副詞 (where) の非制限用法について理解する。
(「知識・技能」)

(2) 学習の基盤

【単元観】

本単元は、人は日常の先入観(あるものは「こう見えるもの」、または、「このように見るもの」と思い込む習性)によってものごと物を見ているという事実について、「錯覚」や「錯視」といった実例とともに紹介する内容となっている。本単元においては、言語材料と意味内容のそれぞれに重きを置いた言語活動を行わせることで、Can-do リストに示されている上記の学習到達目標を達成させるのに適していると考えられる。すなわち、まず単元の冒頭においては、テキストの内容理解に続けて本文の暗唱、要約等を行うことで言語材料の習得を促す。その後、生徒に自分たちで Optical Illusion を見つけてこさせ、本単元内にある談話構造や視覚補助の工夫を参考にしながら、自分たちの Optical Illusion を効果的に紹介するための原稿と視覚補助を作成させる。そして、あらかじめ準備した原稿を見ずに、視覚的補助を効果的に活用しながら発表する練習を行わせてから、発表活動に取り組ませる。また、他の生徒による Optical Illusion の紹介を聞き、最も印象的なものをその理由(談話構造や視覚補助の工夫)と共に、(短時間で用意したメモをもとに)ほぼ即興で意見を発表させる。このように、主に基本的なスピーチ・スキルを身に付けさせること(発表)や、意見や考えをお互いに伝えあう力(やり取り)の基礎を育成するのに適した単元となっている。



【生徒観】

… <個人情報保護のため省略> …



【指導観】

「New One World Communication II」の LESSON 5 「Optical Illusion」の中にある談話構造を利用して、生徒自身が見つけてきた Optical Illusion を、準備した原稿を見ずに視覚的補助を効果的に活用しながら発表する活動を実施する。さらに、紹介された Optical Illusion の中から、最も印象的なものをその理由と共に、短時間で用意したメモをもとに即興で意見を発表する活動を行う。

このような活動を実施するために、本年度当初より、授業開始時に帯活動として「1分間スピーチ」を実施している。与えられた主題をもとに、即興的に英語で発話する活動を帯活動として実施することで、英語を使用した言語活動を円滑に実施する基礎的な力を養成することを目的としている。また、このような活動によって、英語による発話に対する抵抗感の減少も期待している。

この単元の目標の1つとして、「談話構造や視覚補助を工夫しながら、紛らわしい画像について口頭で聞き手にわかりやすく紹介する」という言語の働きを重視したものを設定している。この目標を達成するために、まず類似の内容を扱っている教科書本文の内容についてワークシートを活用しながら読解させる。リスニングを中心として教科書本文の概要や要点を捉えさせ、続く英問英答において生徒の内容理解を確認するとともに、本文の中で用いられている談話構造や視覚補助が果たしている役割への気づきを促す。また、関係詞の文章内での働きを理解するために、一部和訳も利用する。続いて、音読、暗唱、サマリーなどの活動を順次行うことで、「紛らわしい画像を紹介する」ための効果的な談話構造について具体的な表現の形で定着を図る。その際、音声やアイコンタクト等の非言語的要素にも注目を向けさせることで、スピーチ・スキルを高める指導も併せて行う。ここまでの「言語形式（言語材料）」を重視した言語活動を基礎としつつ、本単元の終末にかけて「言語の働き（意味内容）」を重視した言語活動（生徒自身が見つけてきた Optical Illusion の発表会と感想を述べあう活動）へと重点を移し、「生徒が表現したい内容」に寄り添いながら適宜指導を行うこととなる。

(3) 単元の評価規準

- ①談話構造や視覚補助を工夫しながら、紛らわしい画像について口頭で聞き手にわかりやすく紹介できる。
- ②談話構造や視覚補助の工夫等に触れながら、印象に残った紹介について積極的に話している。
- ③関係代名詞（which）、関係副詞（where）の非制限用法について理解している。

(4) 指導と評価の展開計画（全8時間 本時8/8）

ア：知識・技能

イ：思考・判断・表現

ウ：主体的に学習に取り組む態度

時	○ねらい ・主な学習活動	評価				
		ア	イ	ウ	主な評価規準（評価方法）	
					形成的評価	総括的評価
1 5	<ul style="list-style-type: none"> ○各パートの内容理解 ・リスニングによる T or F を行い、内容を理解する ・英語による質問によって、内容を理解する ・部分的に、訳読を利用して、内容を理解する ・各種の音読活動を実施し、暗唱の準備をする ・ワークシートを利用して関係詞の文章内での働きを理解する <ul style="list-style-type: none"> ○教科書を暗唱し、教科書内の表現を定着させ、穴埋めサマリーを行う ・グループごとに英文の暗唱を行う ・穴埋めサマリートのハンドアウトを利用して、サマリーを作成する ・作成した穴埋めサマリーを音読する 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での英問英答に加え、ワークシートを確認し、理解度を確認する ・自分が教科書本文の Optical Illusion を紹介している感じで音読をさせ、音声の工夫やアイコンタクトの取り方などを確認する ・サマリートの文章を用いて、Read & Look Up などを行い、談話構造の理解を確認する 	定期試験（後日）

6	<p>○発表準備（個人作業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表する Optical Illusion を各個人で選定し、発表原稿を作成する ・発表の際に使用する視覚補助資料を各個人で準備する ・グループ内で発表を行い、最も印象的な発表を選び、グループ発表の原稿素材とする 		○	○	<p>談話構造に基づいた分かりやすい発表原稿であるかを確認する</p>	<p>発表の準備に際して、談話構造や視覚補助を意識しながら英語の話し方を工夫しようとしている</p>
7	○発表準備			○		<p>発表の準備に際して、談話構造や視覚補助を意識しながら英語の話し方を工夫しようとしている</p>
⑧ 本時	<p>○Optical Illusion を英語で紹介する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに役割分担しながら発表する ・印象的な Optical Illusion をグループ内で選び、その理由をまとめる ・いくつかのグループが、印象的な発表をその理由と共に発表する 		○	○		<p>パフォーマンステスト（発表会の録画）</p> <p>観察 （他の生徒の発表に対して、談話構造や視覚補助等に言及しながらコメントを述べている）</p>

(5) 本時の展開

① ねらい

本単元の教科書本文の談話構造を利用して、**Optical Illusion** を英語で紹介する。

② 展開

時間	生徒の学習活動	教師の活動と支援	評価
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ Warm-up 1分間スピーチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもと同じ雰囲気となるように努める 	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいと流れの確認 ・発表準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいと、主たる活動の流れを提示し、発表の準備をさせる 	
35	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに、役割分担しながら順番に発表する ・各自、評価シートに従って、発表内容を評価する ・班内で各自が最も印象的な発表を選び、その理由を即興で述べる ・班ごとに、最も印象的な発表を選定し、発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・活発な発表会となるように、支援を行う ・評価シートに盛り込むべき内容を指導する 	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚補助資料を利用しながら、英語で適切に発表できる ・パフォーマンステスト（発表会の録画） <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>印象に残った紹介について積極的に話している （観察）</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいが達成できているかを伝える 	

(6) 本時の評価

十分満足と判断される 生徒の具体例	おおむね満足と判断される 生徒の具体例	支援を必要とする 生徒への指導の手立て
原稿をまったく見ることなく、非言語要素（アイコンタクト・声の調子、ジェスチャー）と視覚補助を効果的に使用しながら、本単元で学んだ談話構造を用いて発表を行っている	原稿をあまり見ることなく、非言語要素（アイコンタクト・声の調子、ジェスチャー）と視覚補助を適切に使用しながら、本単元で学んだ談話構造を用いて発表を行っている	原稿を見る必要がある生徒に対しては、 Read & Look up の形で、発表するように促す

(7) 授業研究の視点

本単元の英文の談話構造を使用した発表活動を取り入れた授業は、自分の調べてきた内容について聞き手に分かりやすく発表する力を育成するために効果的であったか。